

おわりに

今回の研究は過去2年間に本学が行った研究成果に基づき、より柔軟且つ迅速な共同研究契約交渉が行うことができる契約モデルを作成することを狙いとして行った。当初、技術分野ごとに異なる契約モデル作成を行なうべく、アンケート調査を行い、各大学を訪問し実情を調査し、検討した。その結果、分野ごとの契約モデルよりもライセンス形態にあわせた契約モデルを作成した方が実際のとの結論に達して三種類の契約書モデルを作成した。

これらが今後の各大学と企業との共同研究契約等の交渉の参考となれば、幸いである。

なお、提示したモデルはあくまでも一つのモデルに過ぎず、実際の交渉実務においては、研究内容に基づいて相手の担当者と十分に意思の疎通を図ることこそが、柔軟且つ迅速な交渉にとって最重要であることは論を待たない。

最後に、アンケート調査にご協力いただいた各機関の方々、訪問先大学の方々、本プロジェクトを委託していただいた文部科学省の関係者の方々に感謝いたします。

以上